

平成22年度

南幌町教育委員会の活動状況に関する
点検・評価報告書

平成23年8月

南幌町教育委員会

<目 次>

1	点検・評価の基本的な考え方	1
	(1) 趣 旨	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の方法	
2	教育委員会の活動状況	2
	(1) 教育委員会の開催状況	
	(2) 教育委員会のその他の活動状況	
3	教育行政執行方針に基づいた主な施策事業の 取組状況、成果・課題等	5
	(1) 学校教育	
	(2) 社会教育	
4	まとめ	13

1. 点検・評価の基本的な考え方

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、南幌町教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものです。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「平成22年度教育行政執行方針」に示された施策の柱12項目に基づき実施した事務事業としました。

- * 確かな学力の向上をめざす教育の推進
- * 豊かな心を育む教育の推進
- * 健やかでたくましい心身の成長を育む教育の推進
- * 魅力ある学校づくりの推進
- * 南幌高校に対する支援
- * 夢を育む姉妹町締結
- * 少子化の進行に伴う小学校教育のあり方
- * 地域全体で子ども達を育てる体制づくり
- * 本町の特色を生かした生涯学習社会の実現
- * 健康や体力づくりをめざす身近なスポーツ・レクリエーション活動の振興
- * 地域に根ざした芸術・文化活動の振興
- * 新たな時代に向けた社会教育のあり方

(3) 点検・評価の方法

法を受けて、南幌町教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行いました。

2. 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の開催状況

南幌町教育委員会の会議は、毎月1回（定例）を基本に開催するほか、必要に応じ臨時会議を開催しています。この会議において、5名の教育委員が教育行政の基本方針の決定など様々な議題について審議しています。

種別	開催日	付議案件等
定例	平成22年4月26日	(報告) ・平成22年度学校経営の充実及び小中学校教育の推進について (議案) ・第2期南幌町社会教育中期推進計画の諮問について
定例	平成22年5月21日	(報告) ・平成22年度小中学校児童生徒在籍状況について (議案) ・南幌町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について
定例	平成22年6月22日	(報告) ・第2回議会定例会一般質問について
定例	平成22年7月21日	(議案) ・北海道第5採択地区教科用図書採択教育委員会協議会の決定事項について ・中学校の部活動（全道・全国）大会出場費助成要綱の一部改正について
定例	平成22年8月23日	(議案) ・南幌町立小学校適正規模・適正配置基本方針(案)について
定例	平成22年9月22日	(議案) ・南幌町立小学校適正規模・適正配置基本方針について
定例	平成22年10月12日	(議案) ・小学校児童指導要録及び中学校生徒指導要録の改善について ・平成22年度南幌町教育文化功労賞並びに奨励賞の決定について
定例	平成22年11月17日	(議案) ・南幌町教育委員会点検評価報告について

種別	開催日	付議案件等
定例	平成 22 年 12 月 20 日	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回議会定例会一般質問について ・平成 23 年成人式について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員長の選任及び委員長職務代理者の指定について
定例	平成 23 年 1 月 24 日	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度南空知 5 町就学指導委員会判定結果について ・平成 23 年度小中学校就学予定児童生徒数について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南幌町立小学校統合準備委員会設置要綱の制定について
定例	平成 23 年 2 月 22 日	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度教育関係予算主要事業 (案) について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南幌町立学校設置条例の一部を改正する条例制定について ・平成 23 年度教育行政執行方針について
定例	平成 23 年 3 月 28 日	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回議会定例会一般質問について ・平成 23 年度学校教職員人事異動について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南幌町教育委員会職員の勤務時間及び有給休暇等に関する規則の一部を改正する規則制定について ・南幌町招致外国青年任用規則の一部を改正する規則制定について ・平成 23 年度南幌町社会教育推進計画について ・南幌町体育指導委員の委嘱について

(2) 教育委員会のその他の活動状況

① 学校訪問の実施

各学校の教育目標や学校経営、運営方針による教育活動を理解するとともに、施設の状況視察や授業参観を実施

平成 22 年 10 月 4 日 夕張太小学校・みどり野小学校

10 月 5 日 南幌小学校・南幌中学校

② 教育委員・社会教育関係委員合同懇話会

教育委員と社会教育関係委員が一同に会し、生涯学習の観点に立った社会教育推進上の課題や方策について意見交換し、より充実した生涯教育の環境整備を推進する。

平成 23 年 1 月 24 日 南幌町スポーツセンター会議室

参集者 教育委員・社会教育審議会委員・体育指導委員

テーマ「聞き取り調査から探る“まちづくりのキーワード”」

③ 南幌町教育委員会表彰

本町のスポーツ・文化その他教育の振興に功績のあった個人・団体を表彰

・教育文化功労賞

個人 岩井 恭子 (南幌町文化協会推薦)

大井 敏一 (南幌町体育協会推薦)

下地 康文 (南幌町スポーツ少年団本部推薦)

常井 昭人 (南幌町子ども会育成連絡協議会推薦)

・教育文化奨励賞

個人 吉田 拓実 (南幌中学校推薦)

団体 南幌中学校野球部 (南幌中学校推薦)

南幌中学校男子バレー部 (南幌中学校推薦)

④ 南幌町成人式

平成 23 年 1 月 9 日 南幌町農村環境改善センター 新成人 114 名

⑤ 各学校行事

入学式・運動会・体育祭・学校祭・学芸会・学習発表会・卒業式等

3. 教育行政執行方針に基づいた主な施策・事業の取組状況、成果・課題等

(1) 学校教育

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
確かな学力の向上をめざす教育の推進	教育課程の改善・充実	日常的な教育課程の進管理を徹底し、児童生徒一人一人の習熟度別授業を行った。 各小学校では、新学習指導要領の移行期として、完全実施に対応した授業を積極的に行った。	平成 23 年度からの新学習指導要領を基本とした教育課程の作成を行った。 実施にかかる具体的な問題について、校内研修等で検証していく必要がある。
	学習指導の工夫・改善	自ら学ぶ意欲の向上を図る問題解決的な授業の実施、また、ドリル学習や家庭学習の取り組みを推進し、基礎・基本の確実な習得と学習習慣の定着を図った。	学級の実態に応じた指導を工夫することにより、子ども達の学ぶ意欲が高まった。 主体的な学習態度を育成する取り組みは必要である。
	指導内容や指導方法の工夫・改善	自己評価、校内研修及び授業公開による検証を通し、指導内容等の充実を図った。	研究会や研修への参加を促し、他校の実践からも学ぶ機会を与え、より工夫・改善を充実させたい。
	国語力の向上	全教科を通じて、言語活動の充実を図るため、「読み・書き」の場や発表する機会を増やし、表現活動の充実に努めた。	読書や人前での発表などにより、読解力が身についた。 更なる向上を目指し、伝え合うことを通して思考力・判断力・表現力の育成を図る必要がある。
	確かな学力の充実	学習指導要領の目標及び内容に照らして、第2次小中学校基礎学力調査事業（平成20～22年度）の3年目として、小学校3年・6年・中学校3年生を対象として学力調査を実施した。	学校ごとに、各教科の課題や傾向を把握し、解決の視点や学習指導方法などの検討資料とするため、継続して取り組む必要がある。

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
	特別支援教育の充実	特別支援教育学習支援員及び生活介助員を配置し、発達に遅れのある児童生徒に対して、適切な指導及び必要な援助を行った。	子ども一人一人に応じたきめ細かな指導及び支援が行われ、学習意欲の高まりや不得意教科への苦手意識が緩和されるなど、学習指導において成果を上げている。 今後も、継続した支援が必要である。
豊かな心を育む教育の推進	道徳教育の充実	保護者や地域住民と連携し、児童の心を育むことを目指し、参観日等を利用して道徳教育の公開授業を行った。 また、「心のノート」を効果的に活用し、思いやりの心や生命を尊重する心を育む取り組みを実施した。	学校だけではなく、家庭でも「心のノート」を活用し、豊かな心を育成することの大切さを共通認識として持つ必要がある。
	読書活動の充実	朝読書の実施や学校図書室の積極的な活用を図り、読書に親しむ機会を増やした。	子ども達の豊かな情操を育てることができた。 読書意欲や国語力の向上に、学校図書室や公民館図書室の蔵書の充実が必要である。
	小・中・高生徒指導連携会議や教育相談の充実	各学校の生徒指導上の諸問題に適切に対応するため、小・中・高生徒指導連携会議を開催し、情報の相互交流を行った。 また、スクールカウンセラーの活用や教育問題相談員の配置を行い、相談体制の整備を図った。	いじめや不登校など問題行動の未然防止・早期対応に対する学校間による開かれた情報交流は、継続して行う必要がある。

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
	情報活用能力や情報モラルの育成	情報通信ネットワークの高度化に対応し、授業やコンピュータ室使用時の機会を利用して、いじめや有害情報対策など、情報モラルの学習について指導した。学校だより等により保護者への啓発も行った。	メール等における誹謗中傷による相手の心の痛みを理解させ、いじめ防止について再認識させた。教職員の意識も含め、一層の周知啓発を図る必要がある。
健やかでたくましい心身の成長を育む教育の推進	体力・運動能力の向上	体育科指導による体力・運動能力の向上及び水泳大会やマラソン大会を実施した。	運動やスポーツの楽しさや喜びを実感している児童生徒が多く、良好な人間関係の形成にも成果が出ている。
	食に関する正しい知識及び食習慣習得の充実	栄養教諭を中心とし、授業や給食時間を通し、望ましい食生活に対する児童の意識の向上に努めた。	各学校における食に関する指導計画を推進し、家庭と連携しながら一層の食育教育を図る必要がある。
	健康の保持増進、性教育・薬物乱用防止教育の充実	教育活動全体を通じた健康で安全な生活習慣の定着に重点を置き、養護教諭による健康指導を行った。性教育や薬物乱用防止教育についても、各教科や特別活動で指導した。	健全な心身発達を促すために必要な教育であることから、継続的な取り組みが必要である。
	事件・事故・災害等から子ども達を守る教育の充実	避難訓練や警察の交通安全教室、講話の機会を設定し、安全・防災意識の充実に努めた。	事件・事故・災害等から自分自身で身を守るという意識の高揚を図ることができた。学校の取り組みだけではなく、スクールリーダー活動やすきやき隊活動など、地域ぐるみの活動を継続することが必要である。

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
	学校敷地内全面禁煙等、健康教育の充実	学校敷地内禁煙を実施した。併せて喫煙による健康への害について児童に説明した。	保護者や地域住民にも理解され、運動会やPTA活動等においても敷地内全面禁煙は守られている。継続的な取り組みが必要である。
	救命救急器具講習会の実施	心肺蘇生の技術習得について、講習未受講者並びに受講後3年が経過している教職員を対象に、南空知消防組合において、普通救命講習会を実施した。	救急車が到着するまでの間、児童生徒の心臓マヒ等に即座に対応できるよう、自動体外式除細動器(AED)の使用方法について技術を習得した。未受講者については、今後も受講推進を図る。
魅力ある学校づくりの推進	外部評価委員会評価結果の公表	学校関係者評価委員による評価を受け、その結果を学校だより、ホームページ及び保護者会で公表した。	公表することにより学校運営の改善に生かすことが出来た。地域に開かれた学校づくりを進めるために、あらゆる機会を利用して公表を行う必要がある。
	特色ある学校づくり	南幌小学校では、生涯学習サポーターや消防職員等の外部講師による学習や、南幌養護学校、さわやかカレッジとの交流学习などに取り組んだ。 夕張太小学校では、保護者や地域の全面的な協力による行事運営等を行った。また、縦割り班による各種活動の充実にも取り組んだ。	各学校の特性を生かし、特色ある学校として、継続的な取り組みが必要である。
	小・中・高の連携・接続に配慮した学校運営の充実	学校種間の情報交換を図り、子どもの学びの連続性を考慮した学習、生徒指導を行った。	卒業後の生活の様子や卒業前の生活行動について交流し、生徒指導の対応に生かすことができた。継続的な取り組みが必要である。

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
南幌高校に対する支援	特色ある学校づくりへの支援	広報活動、大学・専門学校見学会、インターシップ事業、各種資格取得及び地域住民交流等の支援を実施した。	生徒数の減少や学区の見直し等により、厳しい状態に置かれている。 高校振興協議会への取組強化が必要である。
夢を育む姉妹町締結	姉妹町締結に伴う交流事業の推進	児童交流学習事業を実施した。 南幌町の児童は夏に多良木町の自然と史跡及び名勝を求め訪問し、多良木町の児童は冬に白銀の北海道を体験した。	それぞれの地域では出来ない体験、また、民泊を通して、児童の社会的視野の拡大並びに相互の友好親善を図ることが出来た。 両町の末長い交流を深めるため、継続していくものである。
少子化の進行に伴う小学校教育のあり方	南幌町立小学校適正規模・適正配置基本方針の策定	南幌町立小学校適正規模・適正配置に係る保護者及び住民説明会を開催した。 説明会での意見等を踏まえ、南幌町小学校適正配置等検討委員会で基本方針策定に向け検討を行った。	平成22年9月に教育委員会の承認を得て南幌町立小学校適正規模・適正配置基本方針を策定した。 平成23年3月、議会定例会に「南幌町立学校設置条例の一部を改正する条例」を提案し承認されたことから、平成24年4月の小学校統合が決定した。 平成23年度に南幌町立小学校統合準備委員会を設置する。

(2) 社会教育

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
地域全体で子ども達を育てる体制づくり	子育て支援の充実	子育て支援サポーターを中心にすくすく広場や保健福祉課が行う健診事業の際に子育て支援メソッド事業などの交流事業を通じて子育てを支援する体制づくりに取り組んだ。また、父親が事業に参加できる機会を設定した。	子育てメソッド事業では母親に対する声掛けや読み聞かせを通じて気軽に子育ての相談に応じる体制をつくることができた。父親が事業に参加できる機会を設定したことで子育てに対する関心を高めることができた。今後、更に父親が参加できる機会を拡充することで子育てに対する理解を深めていく必要がある。
	関係機関との連携強化	町保健師（保健福祉課）や保育士（子育て支援センター）、子育てサポーターなどの関係者とネットワーク会議を開催し、情報交換や意見交換により連携の強化を図った。	関係課や子育てサポーターと連携することで、健診時における子育てメソッド事業に取り組むことができた。
	「ブックスタート」の推進	公民館図書室と読み聞かせサークル、子育て支援センターと協力しブックスタートの推進に取り組んだ。また、事業実施後6年が経過し、事業効果を評価するため、対象者にアンケート調査を実施した。	アンケート調査の実施により、実施後の効果が明らかとなり、今後の事業の改善に繋げることができる。合わせて図書室の利用についての課題も明らかとなり今後解決に向けた検討が必要である。
	放課後子ども教室の実施	各小学校区において年30回、全学校区対象に10回実施し、子ども達の安全で安心して活動できる居場所づくりの確保に取り組んだ。生涯学習サポーターの再登録を実施し、教室に対する新たな指導者の発掘に取り組んだ。	3年間経過した中で、学童保育や学校との連携が概ね円滑に進められ事業を効果的に実施している。家庭でも事業の趣旨や内容が浸透してきており、その点が参加者の維持に繋がっている。今後学校で行っている学習内容を事業に取り入れるか否かが課題となる。

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
	学校支援地域本部事業の充実	ボランティアの募集や学校支援の内容についてチラシや町広報を通じて啓発に努めた。ボランティア名簿を作成し、各小中学校へ配布した。	本部設置後3年が経過し、事業の趣旨や内容が概ね浸透してきており、小学校においては総合的な学習の時間などで昨年度よりも大幅に活用が増えた。
	子ども会育成連絡協議会・スポーツ少年団本部への支援	スポーツ大会や世代間交流、リーダー研修など、それぞれが行う事業を通じて活動支援に取り組んだ。特に子ども会育成連絡協議会で行ったリーダー養成事業を通じて子ども達が主体的に事業を運営する体制づくりに取り組んだ。	地域間による会員数の格差などの課題があり、子ども会単位で参加する事業の見直しや単位会に関係なく参加できる事業の拡充を図ることができた。今後は少子化による会員数の減少により、それぞれの団体運営の見直しが課題となる。
本町の特色を生かした生涯学習社会の実現	特色ある学習機会の充実	特に成人に対する学習機会については、ふるさと南幌みらい塾運営委員会と連携し、多様な住民のニーズに対応した学習機会の提供に取り組んだ。また、町民からの公募による自主企画講座の開催により、新たなニーズの把握や人材の発掘に取り組んだ。	学習機会の充実を図る上で運営委員会が企画、提案するなどの役割が定着しつつあるが、主体的な運営には至っておらず今後の課題となる。また、運営委員を公募するなどの取り組みが必要である。
	高齢者への学習機会の充実	さわやかカレッジ自治会と連携し、高齢者としての学習ニーズに対応した内容や研修活動の充実に取り組んだ。また、25年間の活動を振り返った記念誌の作成や記念行事を通じて、自主的な活動が図られた。	高齢者に対する生きがいづくりへの探求や主体的な活動への取り組みができた。

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
	青年団体協議会・婦人会・PTA連合会への支援	それぞれの団体が主体的に実施する事業に対して企画段階から指導助言を与え、事業を通じて連携協力することで団体の活動を支援した。	それぞれの団体が精力的に活動しており、その取り組みに対して支援する体制が図られた。
健康や体力づくりをめざす身近なスポーツ・レクリエーション活動の振興	各種スポーツ教室の充実	キッズスポーツや水泳、スキー、エアロビクスなどの各種教室を通じて、子ども達の体力向上と町民の健康維持に取り組んだ。	子ども達の体力の低下に鑑み各種教室の実施に取り組んだ。いずれも定員を満たす参加があり、今後も継続が必要である。
	地域間のスポーツ・レクリエーション活動の充実	全町ソフトボール大会やミニバレーボール大会、町民歩こう会などの大会を通じて、町民の健康維持と地域間の交流に取り組んだ。	いずれも地域間や住民相互の交流を図る上で住民に浸透している事業であり、今後も継続が必要である。
	関係団体との連携	体育指導委員や関係団体と連携協力し各種大会の運営に取り組んだ。 南幌高等学校との連携を下に各関係団体と協力し、実行委員会を設立しマラソン大会を実施した。	スポーツの振興を図る上で各関係団体と協力し主体的に運営できる環境づくりが必要である。
地域に根ざした芸術・文化活動の振興	芸術・文化鑑賞の機会の充実	学校や幼稚園との連携の下、幼児や児童を対象とした鑑賞の機会を設定した。また、文化協会と協力し、マンドリンコンサートなどの鑑賞の機会を設定した。	年1回の鑑賞事業として学校や幼稚園に定着しており、内容についても学校と意見調整を図り、連携して実施した。 一般向けの鑑賞事業についても文化協会との連携を図りながら実施した。
	本町の歴史に関わる資料の保存や活用の充実	町民などから寄贈のあった本町の歴史に関わる資料の保存を行った。 郷土史研究会の協力を得て板垣家（南幌神社）に伝わる古文書の解説講座を開催した。	保存した資料を活用するという点で1回の講座を実施したが、その他に具体的な施策に取り組むことができず今後の課題となる。

主な施策	点検評価項目	取組状況	成果・課題等
	公民館図書室活動の充実	読み聞かせサークルと連携し、図書室読み聞かせやブックスタート、工作、パネルシアターなど、子ども達が本にふれる機会の充実に努めた。	読み聞かせサークルの協力の下、読書推進活動への取り組みが図られた。今後、図書室の運営についてもサークルとの連携を充分深め、より充実した図書室活動に取り組むことが課題となる。
新たな時代に向けた社会教育のあり方	次期社会教育中期推進計画の策定	平成22年4月に社会教育審議会へ「町民が明るく活気ある“ふるさとなんぼろ”を創造するため地域の特色を活かした新しい視点に立った計画について」を諮問し、社会教育審議会で調査・研究に取り組んだ。	社会教育審議会委員と連携し、聞き取り調査やアンケート調査、まちづくりワークショップを通じて住民の意識調査を実施し、その結果を踏まえ、計画策定に取り組んだ。平成23年度答申。

4. まとめ

この点検・評価の実施を通じて、施策及び事業評価の効果手法の検証と改善を図りながら、より効果を高めるための取り組みや効果的な実施方法等について、更に検証を進め、課題等の解決を図り、より充実した教育行政の実現を目指します。